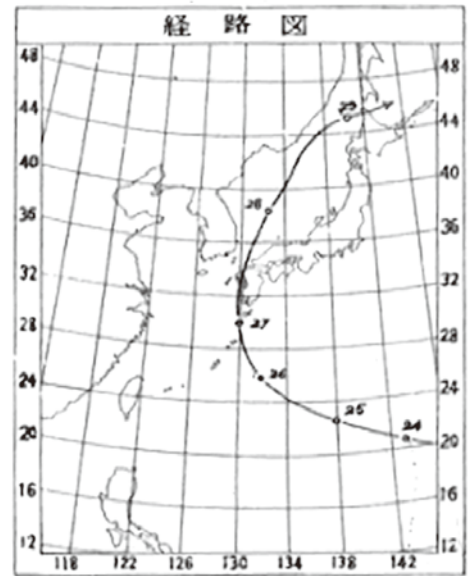




倒壊した家屋 (宇部市学びの森くすのき所蔵)



台風経路図



真締川河口の混乱  
(宇部市学びの森くすのき所蔵)



台風による嘉川付近の被害状況  
(山口県文書館所蔵)



台風による嘉川付近の被害状況  
(山口県文書館所蔵)

気象の概要	■ 周防灘台風は、26日正午に南大東島の北東約100kmの洋上を通過し、同日18時頃から九州西岸に向かって北上した。台風が九州に接近すると、九州・四国方面は26日夜遅くから暴風雨となり、九州通過の際はさらに風雨が強まり、27日夕方、山口県に襲来した。					
	最低気圧(hPa)	967(下関)	最大風速(m/s)	34.2(下関)	最大瞬間風速(m/s)	37.8(下関)
	総降水量(mm)	77.5(下関)	日降水量(mm)	46.7(下関)		
被災場所	県内全域、特に周防灘沿岸部					
被害の規模	(人的被害)死者708人、行方不明者86人、負傷者559人 (住家被害)流失1,996棟、全壊2,990棟、半壊9,060棟、浸水42,165棟 (その他被害)道路損壊67ヶ所、橋りょう流失5ヶ所、船舶流失・沈没2,257隻、鉄道(山陽線)10日間不通など					
被害の特徴	■ 台風が山口県の西海上を北上し、速度が遅かったため暴風域に長時間入っていた。最接近が真夜中で満潮時と重なったことから、周防灘沿岸では高潮による家屋の流失や損壊が発生した。特に厚東川では堤防が決壊し、甚大な被害をもたらした。 ■ 太平洋戦争で観測情報や天気予報などの報道が制限されていたことから、多くの住民が台風接近を知ったのは直前となり、十分な対策がとれないうちに災害に巻き込まれた。 ■ 全国から60万3千9百円余の義捐金が集まり、また、約47万点余の衣類が寄せられた。 ■ 山口県の周防灘沿岸に大きな高潮災害をもたらしたため「周防灘台風」と呼ばれる。					



すおうなだたいふう きしやうじやうほう じゆんぴ  
 周防灘台風では、気象情報が伝わるのが遅くて、多くの住民が十分な準備ができないう  
 ちに被害にあったんだ。  
 ひごろ かくにん さげん ひなん  
 日頃から気象情報を確認し、身の危険を感じたら早めに避難しよう。

## 体験談 『失った白い筆箱』 宇部市 男性

その日、昭和十七年八月二十七日を、生涯忘れることはできない。

その日は午後から風雨が強くなり、夕方には屋根瓦が飛びようになった。しかし、それほど大事に至るとは、家族の者は誰も思っていないかった。(中略)

夜勤に出るはずであった父は、強風のため自転車に乗れず、交通機関は完全にストップしたので出勤不可能のため家にいた。夜に入って父は、家と堤防の間を、何度も何度も往復していた。風雨の強さは、今から思えば異常であった。何度目かの堤防への様子見から帰って来た父は、「起きろ。支度をしろ。堤防が切れた。逃げるぞ。」と、怒鳴った。その瞬間、何がどうなって、これからどういう行動を、この暴風雨の中でとるか咄嗟には理解できなかった。とにかく父の言うことに従い、手をつないで家の外へ出た。強風で足が前へ思うように出ず、ほおを叩く雨粒で目を見開いて暗闇を見通すことがなかなかできない。手を離すと、糸の切れた風船の様に飛ばされそう。それでもなんとか役場前まで来た時、「あれは何か」という父の声で、南の方に視線をやると、暗闇を通して稲の上一尺くらいの高さに白い物がかすかに見えた。次の瞬間、「水だ、引き返せ」という父の声につられて、琴川橋をめがけて走ろうとした。今度はまともに風に向かって走らねばならず、体が浮き上がるようになるため、うまく前へ進めない。やっとの思いで農協の建物の角にたどり着いたとたん、水が怒涛のごとく打ち寄せて来た。五月に生まれた弟を背負って最後尾にいた母が、波に足元をすくわれて倒れた。皆が手をつないで引き摺った。波と風に連れて行かれそうなところを、全員の手で食い止めた。こうようにして琴川橋たもとの堤防にたどり上がった。助かったという安堵感を味わうというよりも、これからどうするのかという不安感でいっぱいだった。堤防上を沖の目めがけて行くことになった。しかし、百メートル行った杉病院の曲がり角で警防団の方にストップをかけられた。そして堤防と同じ高さにある岡本宅に避難させてもらった。

やっと助かった思いが胸の中に広がった。二階へあげてもらった。強風をまともに受けるらしく地震のように家が揺れた。その後たくさんの家族が避難してきた。眠ることはできなかった。

どのくらい後だったか、厚南平野の方の窓から、流される家の屋根に乗って助けを求めて必死に叫ぶ人を、暗闇の中に発見したが、だれも助けに行ける状況ではなかった。すぐにその人は見えなくなった。

家族ごとに身を寄せ合いながら夜が明けるのを待った。非常に長い時間を感じられた。東の空が明るくなるにつれて、強風も嘘のように静まって来た。岩鼻の山の上に太陽が顔を出したころ、岡本宅を出た。堤防の上を自分の家のある方へ急いだ。雲ひとつない晴天、太陽の光が目の中でチカチカした。昨夜のできごとが信じられなかった。我が家の見える所まで来た。水が軒まで来ていて屋根しか見えない。厚南平野が海である。茫然自失、これからどうなるのか見当もつかない。(中略)

明日から学校が始まるというので、学用品はどこにあるかを親に尋ねた。何もなかった。夏休みの前半に田圃の除草をよく手伝った駄賃として、欲しくてたまらなかった白いセルロイドの筆箱を盆に買ってもらっていた。それがどこに流されたのか発見できなかったと、母がすまなさそうに言った。仕方がないと思いながらもくやくしてたまらなかった。(後略)



厚東川の堤防に避難する市民  
(宇部市学びの森くすのき所蔵)



復興作業(宇部市学びの森くすのき所蔵)

厚南風水害受難追悼記念事業実行委員会『厚南大風水害の思い出—五十回忌追悼記念誌—』より転載



## 関係する石碑



すおうなだたいふう 周防灘台風は、山口県に大きな被害をもたらしたことから、各地に**関係する** せきひ 石碑があるよ。

### ①【厚南大風水害受難追悼之碑】

#### 【水害高潮記念碑】

宇部市の厚南地区では厚東川の堤防決壊などにより、死者・行方不明者が約 200 人にも及んだ。

宇部市の妻崎神社境内には、この凄惨な被害を後世に伝えるための石碑と、当時の最高潮位 2.3mを示す記念碑が建立された。



厚南大風水害受難追悼之碑



水害高潮記念碑



### ②【風水害救援感謝碑】

宇部市・小野田市では、高潮により多くの衣類が流されたため、全国から多くの衣類が寄せられた。

山陽小野田市中川には、全国からの衣類寄附に対する感謝の意と高潮時の潮位を伝えるため、石碑が建立された。



風水害救援感謝碑



### ③【大風水害受難之碑】

山口市名田島では、死者 32 人、家屋の全壊流失 68 戸、半壊 109 戸、床上浸水 90 戸、床下浸水 33 戸という深刻な被害が発生したことから、当時の被害と水位を伝える石碑が建立された。



大風水害受難之碑



### ④【高潮来襲記念碑】

山口市秋穂では、死者 2 人、負傷者 8 人、家屋の流失倒壊 418 戸、半壊 203 戸、浸水 856 戸という被害が発生したほか、堤防決壊 24 ヶ所、田畑浸水 177 町、船舶全損 66 隻、流失 31 隻という甚大な被害となったことから、台風襲来の石碑が建立された。



高潮来襲記念碑

